

## 市長記者会見

令和3年12月15日（水）

（中国新聞）では、まず市長のほうからよろしく願いいたします。

（上定市長）本日の定例会見を始めさせていただきます。私のほうから5点ございます。

まず1点目が、「子育て世帯への臨時特別給付金の給付」についてです。昨今の、国の動きもありまして、市としてこういった形で支給するかの検討を重ねてまいりました。この後、議会にお諮りする市の案ということになりますが、子育て世帯の生活を支援するため、ゼロ歳から18歳までの子供を養育する世帯に対して、所得制限がございまして、子ども1人当たり10万円の一括支給を行います。支給対象となる児童数は、3万2,230人を見込んでおります。所得制限につきましては、国が定めておりまして、標準的な例としてはお父さん、お母さん、子どもが2人で、いずれもお父さんの扶養に入っているという家庭において、年収の目安が960万円以上の方は対象から外れるということになります。支給額は子供1人当たり10万円を現金で一括支給を考えております。支給時期は、12月24日が最速になります。今後、議会で議決いただいた上でということになります。少し細かいですが、概要だけご説明しますと、現在、児童手当を受給している方、児童手当を受給している弟・妹がいらっしゃる高校生については、何も申請することなく12月24日に支給します。申請が必要な方については、1月に市から申請書を送付します。申請書を提出いただいた後に、随時支給してまいります。また、令和4年3月31日までに新たに生まれた新生児についても対象となります。

次に2点目が、「第43回まつえレディースハーフマラソン」についてのご案内です。コロナ感染の拡大に伴い中止を余儀なくされており、平成30年度以来の3年ぶりの開催となります。来年の3月20日、松江城の大手前を10時2分にスタートするという予定です。今までは1部のハーフマラソン、2部の10キロに加えて、ジョギング、ちびっ子マラソンというのがありますが、こちらについては今回、まだコロナ感染の完全な終息を見ていないということで中止とします。前回、参加者が2,400人ぐらいでしたが、今回は1,000人という人数制限を設け、先着順となります。参加の申込方法はインターネットで「RUNNET」から受け付けますのでぜひ、お早めにお申し込みいただければと思っております。

3点目、「第3次松江市男女共同参画計画」についてのパブリックコメントの募集です。市では男女共同参画計画というのを策定しておりまして、第2次は平成28年に策定し今年度末で計画期間が終了します。第3次計画では、「男女がともに支え合い、生き生きと暮らせる松江づ

くり」と銘打って、その新たなスタートと捉えています。具体的な特徴として、5つ掲げておられます。1つ目が市民の皆さんにわかりやすいシンプルな構成、2つ目が分かりやすいメッセージ性、3つ目は、課題・目標についてもシンプルに、4つ目は実効性を重視する、5つ目は必要に応じて柔軟な見直しを行うということです。昨年9月、男女共同参画に関する市民意識調査を行いました。これまでの男女共同参画に関する取り組みについての市民の皆さんの意識の変化や、実態の把握、そして今回の第3次の計画策定につなげる目的で、市内在住の18歳以上の男女2,000人の方を無作為に抽出し、907件の有効回答をいただいております。その中で市民の皆さまから寄せられた課題ですが、夫と一緒に子育てや介護をしたいのにできない、男性が会長や代表を務めるものという意識がある、子どもができてもずっと仕事を続けたいのに難しい、早く家に帰って子供と遊びたいのに仕事でなかなか帰れない、DV・セクハラを経験した方が身近にいる、DVの相談はどこにしたらいいのかわからないといった声が寄せられております。こういったことを踏まえ、第3次の基本目標を3つ立てております。1つ目が「男女共同参画意識が浸透した社会を実現しよう」、2つ目が「男女がともに活躍できる社会を実現しよう」、3つ目が「あらゆる暴力の根絶など安心して暮らせる社会を実現しよう」です。この計画案につきましては、市のホームページ、本庁・支所の行政資料コーナー、男女共同参画センターにおいて閲覧できます。12月15日から来年の1月17日まで意見を募集します。年末年始のお忙しいところではありますが、ぜひご意見をいただければと思います。男女がともに支え合い、生き生きと暮らしていける松江の実現に向けて取り組んでまいりますので、皆さまのご協力よろしくお願いたします。

次に、松江市総合文化センタープラバホールのパイプオルガンについての意見募集の結果を報告します。プラバホールのパイプオルガンは、この中国・四国の公共ホールで唯一設置されており、昭和60年11月のホール建設時に設置され、現在36年が経過していますが、一度もいわゆるオーバーホール、分解して洗浄して修理するということをやっておきませんでした。開館時から専属のオルガニストの方に来ていただき、多様なオルガン事業を実施してきたという経緯もございます。これまでの検討の経過としては、平成30年度にプラバホールの利活用に関する有識者会議を開催し、その中でパイプオルガンがあることのメリットと課題を整理した上でオーバーホールについても判断すべきという結論に至っております。これを受け、今年度、利用団体を対象としたアンケート、大規模改修に係る市民のワークショップ、パイプオルガンに関する意見募集を行いました。この意見募集は9月17日から10月13日まで行い、合計65件の意見をいただきました。そのうちの64件がオーバーホールを実施し引き続き活用したいというこ

とで、具体的な活用策についてご提示いただいたものもございました。主な意見としては、パイプオルガンの音色を気軽に聞ける環境は松江にとってかけがえのないものである、パイプオルガンの存在はプラバホールが質の高い音楽に触れることのできる本格的な音楽ホールであることの証であるといったものがありました。これを受け、市としての今後の方針として、令和4年度から5年度にかけて総合文化センターの大規模改修に併せてパイプオルガンのオーバーホールを行います。令和6年の4月のリニューアルオープン後は、学校教育でのパイプオルガンの活用、気軽に来場し体験していただける、演奏会の定期開催などの取り組みを考えていきます。ここで1つご案内ですが、12月18日の3時からこのプラバホールで、コンサートを行います。これが休館前の最後のクリスマスオルガンコンサートになりますので、ぜひお出かけください。

最後に、新しい学習スペースの設置を考えております。これから年末を迎え、学生の皆さんが冬休み期間に入り、受験を控えてらっしゃる方も多いかと思っております。今まで色々な現場に出かけ、学生・保護者の皆さんから、市内に学習するスペースがないというご意見、ご要望をいただいております。それに加え、総合文化センターが来年の4月から休館し、その間の学習スペースの確保も課題になっておりました。そこで、今回新たな学習スペースを新規に2か所設置します。1つ目が市民活動センター（スティックビル）、もう1つが松江駅前の松江テルサになります。市民活動センターは12月15日から23人分のスペースを用意しています。1階のカフェの中、2階はテーブルが高く立って学習という形になります。近いところで椅子を置いて腰かけてできるようにします。さらに、3階のフリースペースも利用できます。もう1つの松江テルサは3階のフリースペースに12月15日から16人分の学習スペースを設けます。利用上のルールとして、一般的なコロナ対策を行っていただくことや、おしゃべりは控えていただくこと、長時間利用される場合でほかの方が待っていらっしゃる時は譲り合っていただく、複数のテーブルの独占、会合などの利用は禁止とします。既存の施設として、公民館を開放していますが、今まで皆さんにPRができておりませんでした。今後はホームページなどで、学習スペースとして利用できる場所があれば、随時お知らせしてまいりたいと考えております。

（中国新聞）では、各社の質問に移りたいと思います。まず、幹事者から質問させていただきます。よろしく願いいたします。まず、10万円の一括支給ですが、開会中の議会の最終日に追加提案するという認識でよろしいですか。

（上定市長）はい、その予定で、議会と調整しております。

（中国新聞）パイプオルガンの件で、18日のオルガンコンサートというのは、休館前最後のクリスマスオルガンコンサートということですが、一般的なオルガンコンサートはこの後も開催

されるということですね。

(上定市長) おっしゃるとおりです。

(中国新聞) 学習スペースの件で、公民館での学習スペースについて土日祝日が使えなくて大体5時までとなると、学校が終わってからや土日祝日に勉強したいという方の利用にどれぐらいつながっているのかというところが少し疑問なので、今後土日祝日でも勉強できるスペースをつくるお考えがあるのかということと、スティックビルの中のスタンディング学習スペース、立ってというのにあまりイメージが湧いてこなくて、今すぐにでも椅子を置いたらいいのではと感じましたがいかがですか。

(上定市長) 分かりました。ありがとうございます。既存の施設の利用時間についてはおっしゃるとおりでして、今後は公共施設だけではなくて、民間の、例えばホテルの方に一定期間、特に受験の前のシーズンに貸し出していただくとか、そういった協力もお願いしたいと考えています。スティックについては、私も行きましたが既存の机を活用しようということで、座ってやるのは今のところちょっと難しいですが、年内には椅子を設置する予定です。

(山陰中央新報) 子どもの給付金についてお伺いします。松江市としては当初、年内5万円の現金支給をして、残る5万円についてはクーポンか現金かを検討していくという方針だったと思います。今回、最速で年内現金10万円の一括給付に決められた理由というのを教えてください。

(上定市長) これは市民の皆さんの目線に立ち、また実際に市長への手紙という形で幾つかご意見もいただいています。使い勝手を考えたときに、もちろん私も経済界にも身を置いておりしたので、クーポンで使わざるを得ない環境をつくり出すというのは、経済対策としてあり得なくはないと思います。しかしながら、疲弊している市民生活を中心に、地域経済の立て直しを考えておりました。その中で貯蓄に回し、例えば来年のお子さんの進学に備えるとか、そういう選択肢もあっていいと思っています。市民の皆さんにその5万円、10万円を有効活用していただくためにはどうしたらいいのかということ考えたときに至った結論として、できるだけ早く現金支給で10万円一括と決定しました。この後、議会のほうにお諮りするという事になります。

(山陰中央新報) 事業費がどのくらいかは分かりますでしょうか。

(上定市長) 事業費が支給対象人数掛ける10万円に事務費が若干乗りますので、32億5,300万円です。クーポンにすると事務費が上がりますが、現金一括給付ですので事務費も最小化できるという行政側のメリットもあると思っています。

(山陰中央新報) 理由としては、早期支給につながるというところと、あとは事務費、事務の負担などを総合的に考慮されて決められたという理解でよろしいでしょうか。

(上定市長) そのとおりです。総合的に判断したときに何が一番いいのかというなかで、この10万円一括現金給付がベストだと判断したところです。

(山陰中央新報) 例えば町村部だと、クーポンが地域限定になった場合に使いづらいというような、不安視されることがあると思います。一方で松江市の場合は、使えるところも多々あると思います。個人的には対象の子供を持つ親として、現金一括支給というのはすごくありがたいですが、一方で経済的な目線でいうと、クーポンで使ってもらえればうれしいという思いをお持ちの方もいらっしゃると思います。改めて現金にした理由を教えてください。

(上定市長) 両方とも重要だと思います。市民生活もそうですし、企業活動についても円滑に持続可能なものにしていかなければいけない、特にコロナ禍の今、立て直しを図っていかなければいけない、これはもう市民生活についても企業活動についても共通した理解です。その中で、松江市としても今回は国の施策に基づいて、個人に対する給付、特に18歳以下の子育て世帯について支援をしていくという文脈の中での話なので、まさに子育て世帯が何を一番要望しているのかというところを優先したということになります。今までも支援給付金等を含めて、企業活動が円滑に回復して、さらに持続可能性を高めていくための支援は、国、県と一体となり、また市独自でもやっていますので、そちらを軽視するというつもりは全くございません。一番そのご要望に即した形で支給するのがいいと考え、この結論に至ったということです。

(山陰中央新報) 要望というのは早期支給というところと、使い勝手ということによろしいですか。

(上定市長) すぐに消費に向かうということももちろん現金でもあると思いますし、クーポンだと、逆に言うと万が一の備えにはなかなかかなりにくいという意味での受け取った方の使い勝手を最優先したときに、この形がベストと判断しました。

(山陰中央新報) 今の議会の定例会は21日が最終日ですが、最終日に関連経費を盛り込んだ補正予算案を追加提案されるということですか。

(上定市長) その予定で、調整をしています。

(山陰中央新報) 島根原発2号機のことについて伺います。市長は再稼働の可否判断に当たって、まずは関係省庁や中電から説明を受けて、その後、議会や安全対策協議会、市民の意見を聞いて総合的に判断するとおっしゃっていました。その中で、今、どの段階のプロセスまで来たのか、例えば説明とか意見を聞くというのは、どの段階まで来ているのかを教えてください。

(上定市長) 分かりました。市民の皆さんに参加していただいた住民説明会を4回開催しました。その後も、意見を寄せていただいているところでして、その意見についての回答というのを国、または中国電力に依頼をして、取りまとめつつあるところです。その回答については、今日の午後に開催される、原子力発電所環境安全対策協議会、安対協ですね、のほうに報告をします。今までの説明会でいただいた意見と、その後に出てきた意見、質問についても回答をもらいましたので、それについてのご説明をし、そこでまた委員の皆さんから意見をいただくプロセスになります。その上で、実際、市議会において明日、原子力対策特別委員会が開催されますので、そういった動きを注視しながら判断の材料を整えていくプロセスの過程という捉え方をしています。

(山陰中央新報) 踏み込んだ質問かもしれませんが、年内の可否判断の可能性はありますか。

(上定市長) 特定の時期を決めて、そこまでに判断という思考のプロセスにしていけないです。いずれどういった結論になるにせよ、心象を形成していくためのプロセスだと思っていますので、腹落ちするまでに十分な検討を図りたいと思っていますし、いつまでに判断しなきゃいけないという期限を設ける話ではないと考えています。

(山陰中央新報) 可否判断を表明する際に、前市長時代は、議会の本会議や全員協議会の場だったと思います。市長としてはどの場で表明するのか何かお考えはありますか。

(上定市長) 今は特にないですね。例えば、議会が開会中なのかとか、色々な要素がありますので、その判断のタイミングにおいて一番適切な方法で表明することになるかと思っています。

(読売新聞) 今の原発のお話で、心象を形成していくプロセスであるとおっしゃいましたが、どなたの心象ですか。

(上定市長) 私の心象です。私が判断していくに当たっての心象ということになりますが、もちろん議会とやり取りをすることも意思判断において非常に重要なプロセスだと思っています。

(読売新聞) 学習スペースについて、自治体が整備することの意味、意義といいますか、個人的に勉強だったら家でもできるのでは思ってしまう部分もあって、自治体として環境を整えるというのは、どういうお考えがあるのでしょうか。

(上定市長) 私の実体験に基づいているところがあります。娘が2人いますが、1人の娘はいつも近くのコーヒーショップで勉強していました。そのほうが緊張感があって勉強がはかどると言っていて、うちの娘だけのことかと思っていたら、市長になってから、色々な方と意見交換する中でも、ほかの人に見られている緊張感がある中でやったほうがはかどるという声をお聞きしました。そういう声を踏まえたときに選択肢として、もちろん家で学習する人は家で

学習していただき、そして学習スペースを外に欲しいと思っている学生の要望に応えられていない状況でしたので、それを改善していきたいという思いです。

（読売新聞）事業費はかかっていますか。

（上定市長）先ほどの椅子の設置などがありますが、補正予算を組んでというレベルでかかっているわけではありません。

（読売新聞）分かりました。この学習スペースが利用できる期限はありますか。

（上定市長）今はありません。社会実験という言い方はしていませんが、本日からオープンなものですから、使い勝手の面などで学生の皆さんの意見をいただきたいと思っています。この形で続けるのがいいのであれば、できるだけ長くと思っていますし、別のアイデアがあればそれを反映する形で、市のスペース、公民館なども含めて有効利用を考えていきたいです。1つの先駆的なモデルとして皆さんに実際に使っていただくことからやりたいと思っています。

（読売新聞）パイプオルガンですが、方針決定されたという理解でよろしいですか。

（上定市長）市としての方針を決定させていただきました。

（毎日新聞）子育て給付金の件ですが、支給対象の3万2,230人は所得制限を設けての人数になるかと思います。制限を設けなかった場合、どれぐらいの人数になるのかというところと、制限撤廃は、松江市では難しいとご判断なさったんでしょうか。

（上定市長）数字が、私の手元になくて大変恐縮ですが。

（子育て支援課長）申請いただかないと分からないので、推計になりますが2,000人弱が対象外になると思っています。

（上定市長）もちろん自主財源で手当をするという、アイデアをお持ちの自治体さんがあるということは承知しています。ただ、松江市として限られた財源を有効に活用していくという観点もまたあり、どこで線を引くかというところについて考えたときに、今回の判断としては国が示している、この一定の所得制限というのをそのまま採用する形で現金給付を決めたということでご承知いただければと思います。

（毎日新聞）例えば、ほかの大都市、大阪市や横浜市なんかですと、所得制限を設けずにやると、プラス20万人、プラス30万人で、自主財源では難しいというところもあるかと思いますが、2,000人だったら給付できないこともないのでと思いますが、この制限をやはり設けようと思った一番の決め手は何でしょうか。

（上定市長）財政規模、あるいは人口規模によって、それぞれの自治体の判断というのは異なると思います。今の段階で国が所得制限を設けている以上のところの負担をしていくというこ

と、あるいは今回対象となっていない市民の皆さまに対しても予算を有効に使っていくこと、限られた財源であることなどの総合的な判断として、今回は所得制限をそのまま採用したということになります。

(毎日新聞) 当初は現金5万円プラスクーポンでというところで、政府の支給に対する方針が二転三転したと思いますが、その辺りについて対応の難しさだったり、困ったところがあれば教えていただきたいです。

(上定市長) 正直、難しさはありました。その時々で最新情報でどういう給付の形態が市民の皆さんにとって一番いいのかということ、本当に多分ここ数日は毎日その件で会議をやっていました。国の方針が今の段階では定まっていると考えておりますが、その後の議会との調整もありますので、ぎりぎりのタイミングだったと思います。今日、たまたま記者会見の場もありましたので、一番いい形で発表できたと考えています。最終的には、やりやすい形の中で決めることができたと思っています。

(毎日新聞) 昨日の議会の予算委員会を受けて最終決定をされるというところで、24日に支給ということですが、各家庭の口座に振り込まれるということですね。

(上定市長) おっしゃるとおりで、最速で24日ということになります。

(TSK) 給付金の関係で1点確認ですが、既に対象の世帯には、先に5万円支給で通知を出している状況だと思いますが、再度通知をしていくということですか。

(子育て支援課長) すでに通知をしておりますので、追って5万円だったのが10万円になるという通知を行います。今、準備をしているところです。

(TSK) 島根原発の関係で、2号機の可否判断前ですが、実際に2号機が稼働した場合に国の交付金が立地自治体の松江市では増える可能性があるかと思えます。それに対しての試算などはありますでしょうか。

(上定市長) その試算の数字としてはありますが、私としてそれをもって、可否判断に大きな影響を及ぼしているかという、そういったことよりは、今、その前段階といいますか、必要性・安全性・避難対策といったところを重点的に考えているということになります。

(TSK) 昨年度の実績でいくと、およそ25億円近くの交付があったかと思いますが、この金額というのは市にとってどういうものであると市長は捉えられていますでしょうか。

(上定市長) 25億円というのは一般論としてお答えすると、松江市の財政規模は、年間予算が大体1,000億ぐらいですので、小さくない数字ということとは言えると思います。

(TSK) 立地自治体として、交付金の必要性・重要性というのはどうお考えですか。

(上定市長) これも、一般論ですけど、やはり原発が立地しているということで、色々なリスクの負担をしているわけです。そのリスクに見合うだけの国からの支援であったり、島根原発で発電された電力が島根だけに供給されているわけではありませんので、そのバランスを取るための手段として、交付金や補助金といったものはあり得ると考えています。

(TSK) 今回、地元の商工団体などから早期の再稼働に向けた陳情などもあります。市長として、交付金以外において再稼働によってどういう部分で一番お金が生まれるかという分析をされたり、何かお考えなどはありますでしょうか。

(上定市長) 正直に申し上げますと、お金の面でのアプローチをしていないので、ちょっとお答えにならないかもしれません。経済界からそういった陳情が出てきていることは、承知しています。そこは、経済的に今、特にコロナで情勢が厳しいので、そこからの回復のための資金が必要であるとか、安定的に電力供給がなされなければ事業継続がなかなか難しい、ブラックアウトが起きれば実際の企業活動できなくなりますから、そういった点も含めてだと思えます。そういった陳情についても、これは賛成側、反対側も含めてですが、明日、議会の原子力対策特別委員会のほうにも諮られると思いますので、その状況も注視して考えていきたいと思っております。

(TSK) お金の面について判断の最優先ではないとはおっしゃいましたが、その点についてのお考えがもしあればお聞かせいただきたいです。

(上定市長) お金の面の話にならなくて申し訳ないですが、当初から言っているとおり、市民の皆さんの安心・安全が確保されるということが大前提ですので、その上で色々な要素を総合的に考えて判断していくことが必要だと思えます。そのうちのお金の話も当然一つの要素として含まれるという認識を持っています。

(朝日新聞) 給付金に関しては、早期、つまり年内に受け取る子育て世帯の使い勝手がいいようにということで今回の決定をされたということですね。

(上定市長) おっしゃるとおりです。

(朝日新聞) 原発についてですが、住民投票について否定的な見解を示されたというような報道もありました。ただ、ずっと会見を聞いていると、1つの判断材料にはするというご発言もあったように思います。改めて、住民投票への受け止めをお聞かせください。

(上定市長) 分かりました。まず、6月議会でも答弁をしておりますが、これは何か特定の課題に対してということではなく一般論として私の考え方を申しますと、住民投票自体は直接民主主義を果たす有効な手段であるという思いはあります。一方で、日本は間接民主主義をしい

て議会の議員を選び、あるいは市長を選挙で選んで判断をしていくというプロセスを持っています。議会制民主主義の中で選ばれた市長や市議会議員が、色々な入り組んだ調整が必要な事項について、議論をした上でしっかりと意思判断をしていくということが必要な局面が多いと思います。ともすると、住民の皆さんに判断してくださいということ自体が、市民に責任を押しつけるということにもなりかねないという思いを私は持っていますので、住民投票については慎重であるべきというスタンスを持っているというのが一般論としての私の考えです。

（朝日新聞）つまり、6月の議会での見解から変わりはないということですね。

（上定市長）はい、おっしゃるとおりです。

（朝日新聞）ただ、情勢が進みまして、中国地方弁護士会連合会などからも住民投票すべきであるというふうなお考えがあります。一部の市民団体からは間接民主主義といっても市議会の候補において原発に関する考えを示した人は少ないのではないかと、これでは判断にならないので、もっと議論をしたいというご意見もあります。こうした考えについては、いかがですか。

（上定市長）議会のほうでも、原子力対策特別委員会でも色々な議論が今後なされていくと思います。まだ住民投票の条例設置の請求を受けているという状況ではありませんし、今後、請求が正式になされて審査を経て、議会に諮っていくというプロセスがありますので、その過程において今日の午後の安全対策協議会もそうですし、明日の原子力対策特別委員会もそうですけども、そういった議論、あるいは意見を踏まえた上で総合的に判断していくということを考えていますので、今特段何か、例えば住民投票請求があったと仮定しての何らか結論を持ち合わせているわけではありません。

（朝日新聞）再稼働の是非についての住民投票についても、一般論と同じ考えということでしょうか。

（上定市長）住民投票というものに関する考え方は、一般論として持っています。

（朝日新聞）慎重であるべきであると。

（上定市長）はい。

（山陰ケーブルビジョン）プラバホールの改修についてですが、ワークショップに市長も自ら出向かれ、興味がおありだとは思いますが、パイプオルガンの在り方についての市長のお考えをお聞かせください。

（上定市長）私も実際にワークショップに参加して、舞台上上げてもらい、そこで横になって音楽の振動が実際におなかに響いてくるのを味わいました。私がかねてから思っているのは、音楽と芸術とスポーツは国境を越える共通言語で、世界とつながることもでき、情操教育的に

もとても意味があると思っています。松江は幸いにもこのパイプオルガンを抱えたホールというのが公共施設としては中四国で唯一ある非常に恵まれた場所です。先人がパイプオルガンというものに意味があり、これが教育だけではなく、町のにぎわいなども含めて地域振興のために必要なものだと考えて設置してくれたものだと思います。それを、未来に活用できるか、できないかを考えたときに、活用していかない手はないなということ、私も身をもって体験をしました。さらに市民の皆さんからのご意見もいただいて今回の結論ということになります。

(山陰ケーブルビジョン) 学習スペースについて、プラバは今後改修されていきますが、今現在の平均の利用者数をおしえてください。

(上定市長) プラバホールのほうの学習スペースの平均の利用者数ですね。今年の4月から10月までで84日間、学習スペースを設けていまして、合計で1,455人、1日の平均が17人ということになっています。

(山陰ケーブルビジョン) 高校生からの要望があったということで、学習スペースについて、どのぐらいの要望があったのかが分かりますか。

(上定市長) 色々な高校に出かけてやり取りをさせていただいていますが、そこで直接質問をしてもらうなかで、いただいたこともありますし、あと市長への手紙でもいただいたこともあり、複数から寄せられていると認識しています。

(山陰中央新報) 今日は年内最後の定例会見になりますか。

(上定市長) もう1回行います。

(山陰中央新報) 分かりました。1年の感想を聞こうと思いましたが、次の機会にします。

(上定市長) 考えておきます。

(中国新聞) ほかに、いかがでしょうか。なければ、本日の定例記者会見は終了します。

(上定市長) ありがとうございます。